

時代仮装行列にぎやかに

江戸時代に旧長崎街道の宿場町として栄えた飯塚市をPRする「筑前の國いづか街道まつり」が22日、中心商店街やコスモスコモン前広場で開かれた。新型コロナウイルスの影響で開催は4年ぶり。特設ステージでは宿場太鼓や書道パフォーマンスが披露され、観光客や市民が拍手を送っていた。

4年ぶり「いづか街道まつり」

メインイベントの時代仮装「消し」姿の市民ら約200人行列は、近畿大付属福岡高のアーケードを練り歩いた。バトン部と吹奏楽部を先頭に、観光客らは、にぎやかに午後3時、東町商店街をスタート。姉妹都市の米カリフォルニア州サンベール市の市長が「お殿様」、飯塚ふるさの原田希衣さん(7)は「(芳と応援大使の芳野友美さんが野さんの)着物姿がかわいかった」とにっこり。芳野さん



お殿様やお姫様、武士に扮してアーケードを練り歩く参加者たち

バンド演奏やトークも

は「地元にとくさんの人が集まってくれてうれしい。飯塚の魅力伝えるためにいろいろなイベントに参加したい」と話した。

会場には特設ステージが3カ所設けられ、地元ジャズバンドの演奏や飯塚オーケストラの演奏のレーサーによるトークショーもあった。まつりの最後は、仮装行列の参加者が市のご当地ソング「ON-DO いづか」に合わせて踊る総踊りで締めた。

(大橋昂平)

西日本新聞meに動画



3カ所に設けたステージでは地元のジャズバンドや、近畿大付属福岡高吹奏楽部による演奏などが披露された